

乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 26 週 平成28年6月27日 ~ 平成28年7月3日

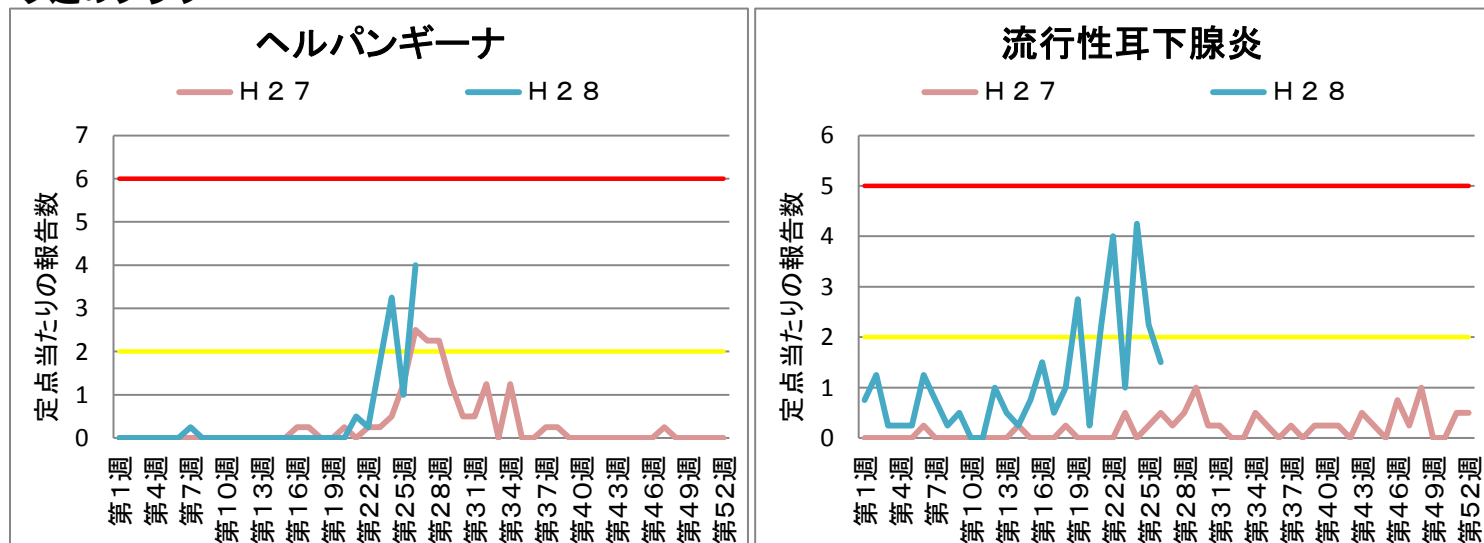
今週のコメント

○ヘルパンギーナの報告が増加しています(定点当たり4.0件)。ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎で、乳幼児を中心に夏季に流行するいわゆる夏かぜの代表です。突然の発熱(38~40度)に続いて喉が痛くなり、口の中に直径1~5ミリの赤い水疱(すいほう)が多数できるのが特徴で、飛沫(ひまつ)などで感染します。予防のために、うがいや手洗いなどを心がけましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告は減少しています。

○流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の報告は減少しています(定点当たり4.25件)が、保育所・幼稚園の欠席者情報収集システムでは今週(7/4~)に入ってからでも継続してみられており注意が必要です。

今週のグラフ



* 赤線 流行警報基準値です 黄線 警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	-	手足口病	2.75
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	0.25
咽頭結膜熱	0.25	突発性発しん	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.5	百日咳	-
感染性胃腸炎	5	ヘルパンギーナ	4
水痘	-	流行性耳下腺炎	1.5

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

参考資料等

報告週対応表

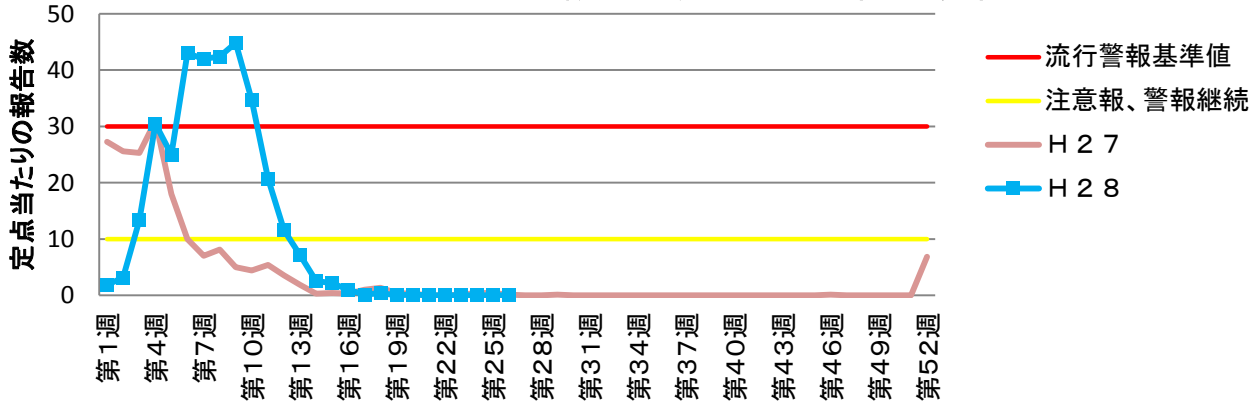
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

警報・注意報基準値の説明

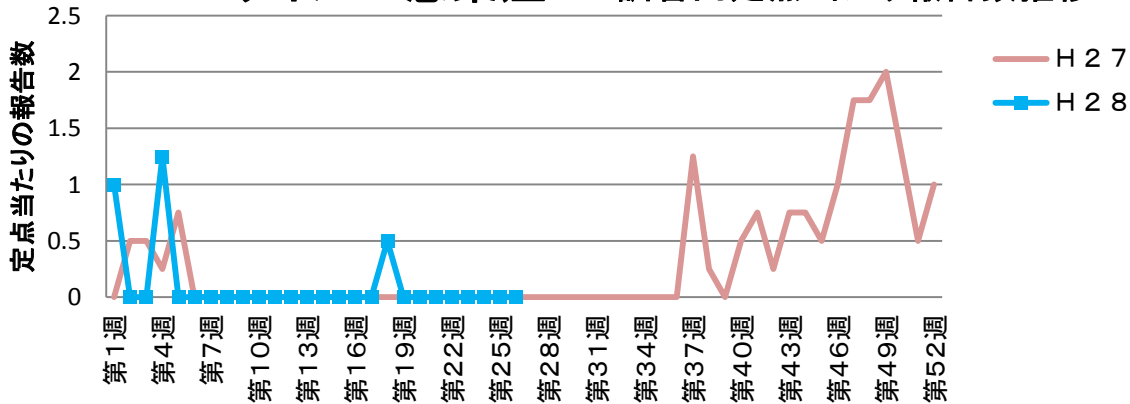
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

定点報告による各疾病の推移

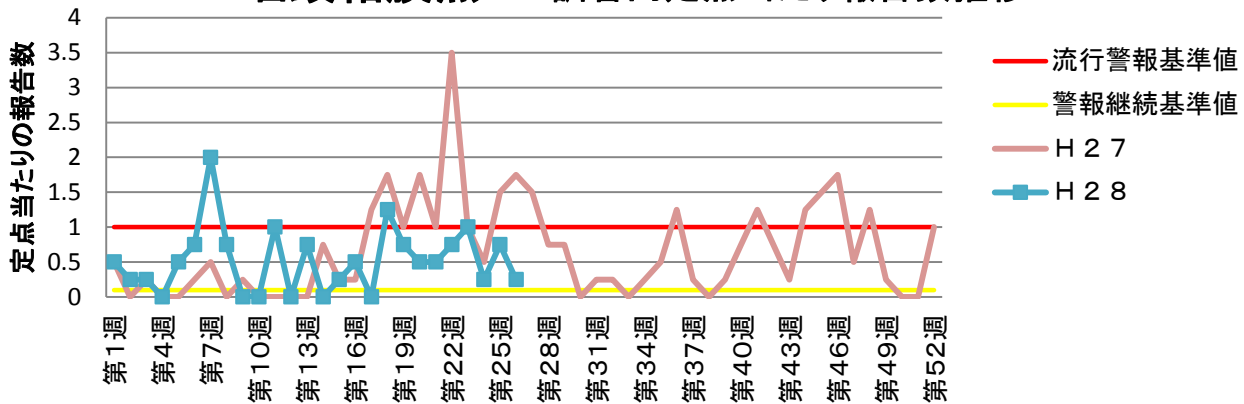
インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



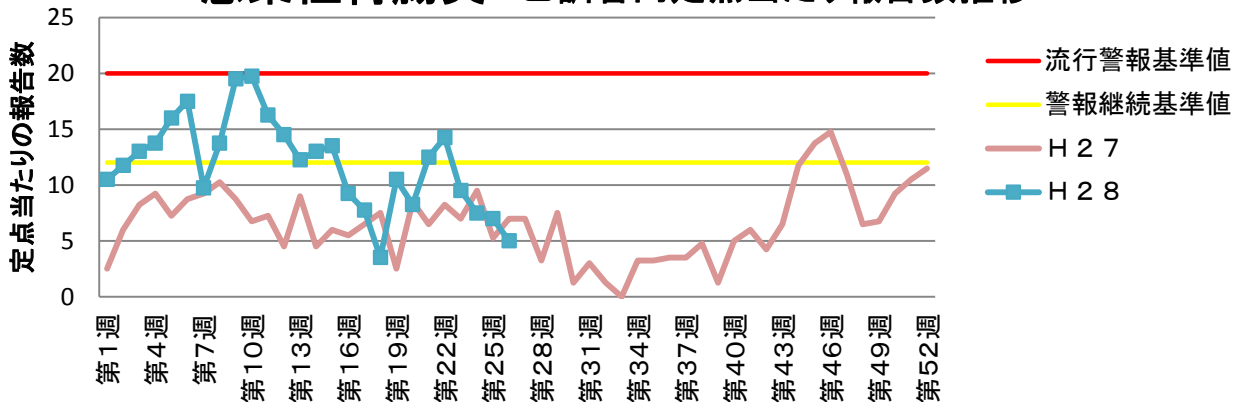
RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



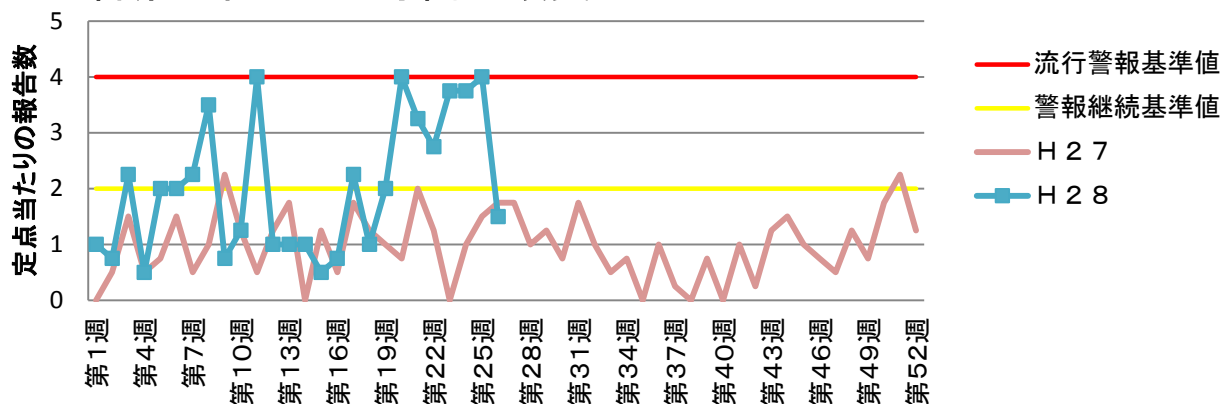
咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



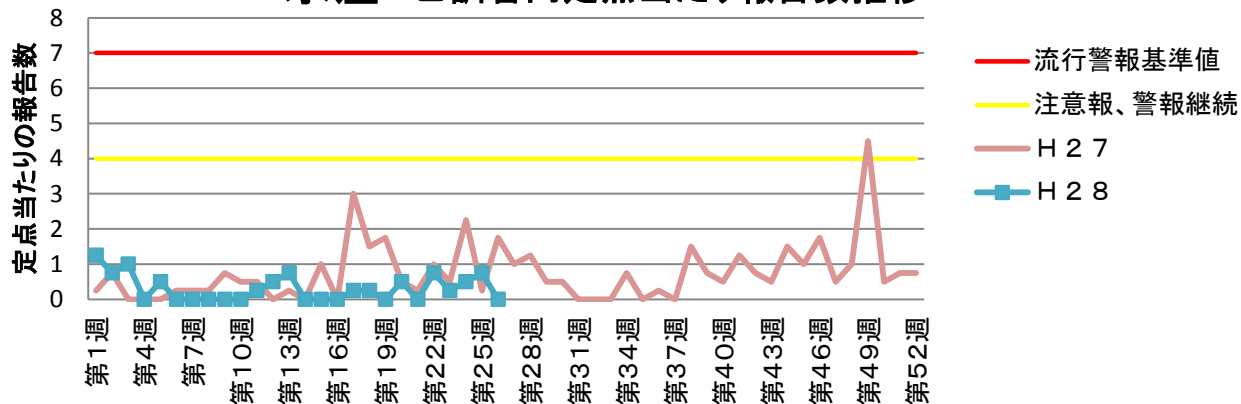
感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



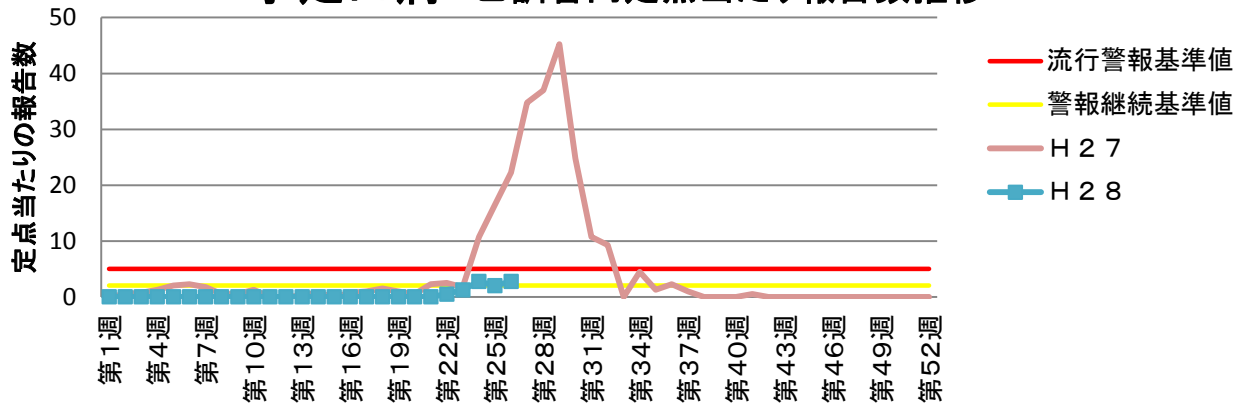
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



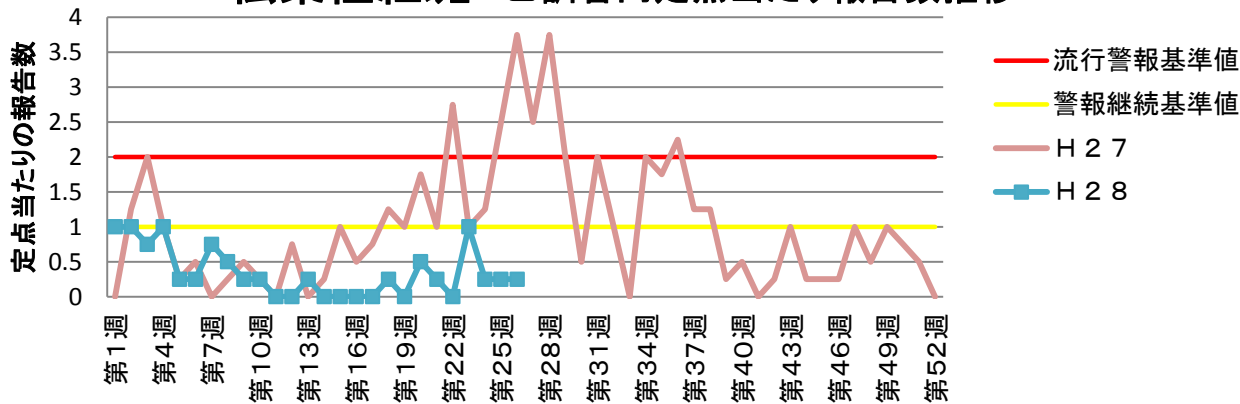
水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



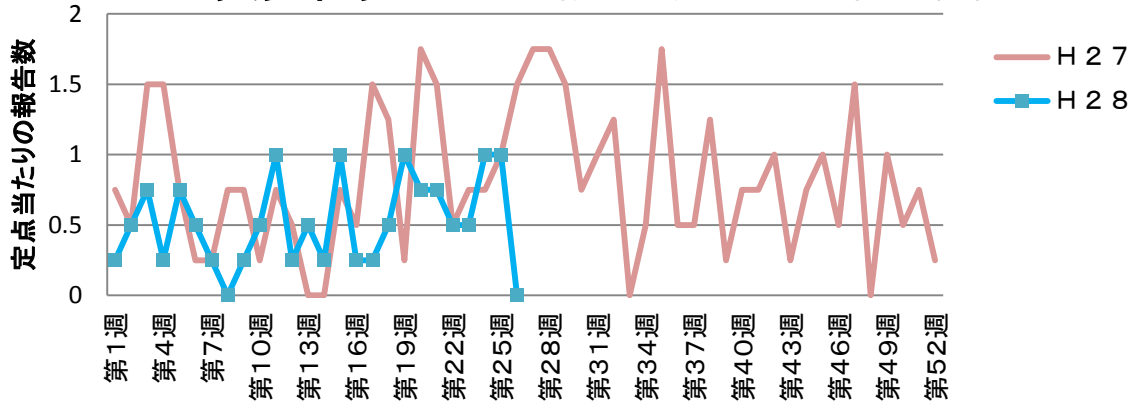
手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



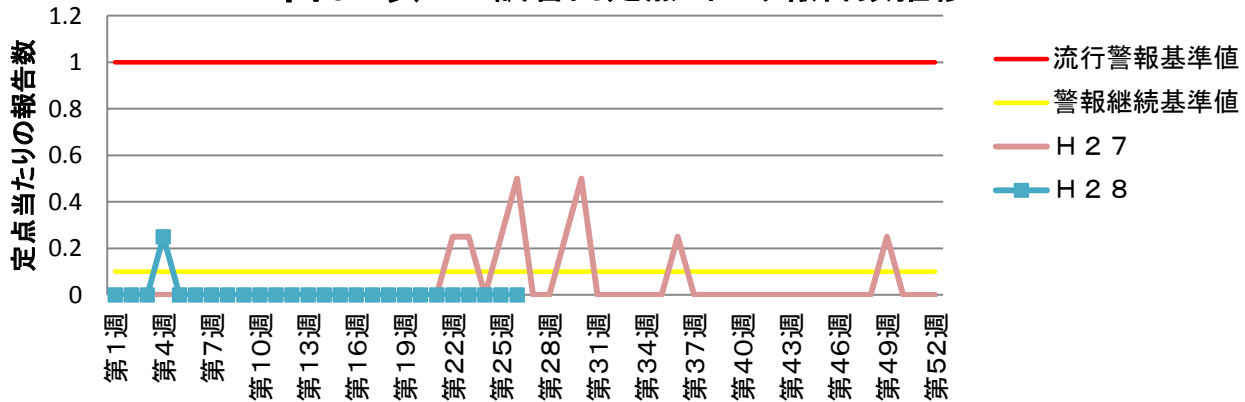
伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



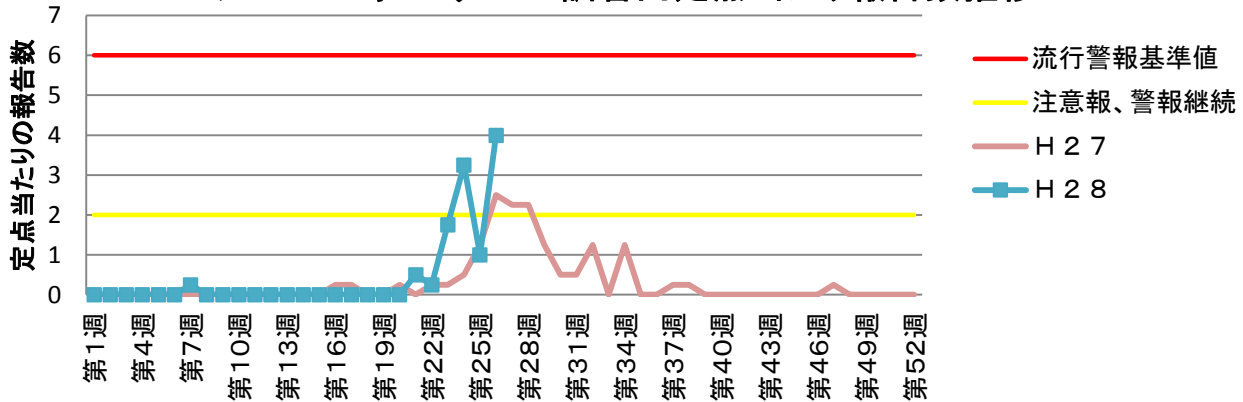
突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

